

№7 「老人農園事業」 「シルバー趣味の教室事業」 「バスハイク事業」

担当課	(資料に基づき事業内容説明)
委員	老人農園事業として提供している土地は民間から出しているのか。
担当課	これは、市有地である。
委員	この事業については、最近では民間の事業ベースでやっている地域が増えてきている。老人農園事業は、7人くらいの利用者、猪位金等は誰もいないという状況を踏まえて、市の財政も逼迫しているので、市としては廃止してもよいのではないかと。田畑を持っている人たちを事業ベースに実施するという点も検討してはどうか。
担当課	確かに7名しかいないが、この7名は団地などに住んでいて全く土地を持っていない方となっている。農協なども土地を区画してやっているが、この事業は区画としてやるのではなく、様々な地域の方が1つの農園でというところで、コミュニケーションを持ちながらやっていく。人数は少ないが、老人の福祉政策の一環としてやっているのだから、それを廃止することは今のところ考えていない。
委員	老人農園事業について、7名の方は農園まではどのような手段で来ているのか。車で来ているのか、送迎等をしているのか。
担当課	送迎については、市は一切していない。当然、高齢の方もいるので、自分で運転できない方もいるので、家族の方が連れて来たり、一緒に農園をやっている方と乗り合わせて来たりしている方もいる。
委員	運転する方もいれば、運転できない方もいるという認識でよいのか。次にシルバー趣味の教室事業において、10講座にどのくらいの方が登録されているのか。定員制で行われているのか。
担当課	民謡16、レクダンス27、俳句15、陶芸28、きめこみ22、詩吟16、英会話15、民謡15、パッチワーク21、書道21、平成24年9月現在の合計が196名で、上限は特に設けていない。
委員	バスハイク事業について、募集方法、採用方法を教えてほしい。
担当課	募集については広報に載せている。直接、委託しているところに申し込んでいただいて、先着順ということになっている。
委員	参加者のリストはこちらで把握しているのか。
担当課	保険に加入するため、リストを把握している。
委員	参加する方は、リピーターが多いということや毎年同じ方が参加しているかということは把握しているのか。
担当課	誰が毎年来ているかという付け合せはしていない。
委員	バスハイク事業について、65歳で生きがいを感じるという意味で、家に閉じこもるのではなく、外に出て行って足腰を鍛えたり、人と会話したりするなど、大変重要な事業ではないかと思う。しかし、各校区や各地区で老人会が結成されているところが多いが、その中でも老人会が結成されていない地区もあると思う。老人会とバスハイクの関連はあるのか。
担当課	老人会については、把握していない。
委員	個人負担が3,500円ということであるが、実質が180名の参加ということではよいのか。

担当課	申し込み数が180名で、当日になって来られなくなったというのがあるので、平成23年度では、10名の方が来られなかった。180名来られることを前提に、前日までにキャンセルがあった場合、キャンセル待ちの方に連絡するような形にしている。
委員	老人農園事業について、良い場所に設置されており、7の方が現在使っているということで、事業を続けていきたいということだが、田川市の財源から考えて削減できるものは削減していくという方向性から、もう一度考えていく必要があるのではないかと思う。
担当課	P73のコストを見ると費用がかかっているという印象があるが、老人農園事業があってもなくても施設の維持管理、補修等に伴う「0.1人の人件費80万円」は発生する経費。種代などは13万円程度で、それを負担してもらえれば、ほとんど経費がかからない。そのような意味で、様々な老人施策のツールの1つと考えてもいいのではないかと思う。
委員	それは理解できるが、老人農園は、いい場所にある。土地の売却という考えは全くないということか。
担当課	位登農園については、他の用途を考えているが、川宮については歴史的な経緯があり、地元との兼ね合いもあるので、売却などの話については差し控えさせていただく。
委員	老人農園については、コストの問題もあるが、農村部では、荒廃した畑や土地が沢山ある。作っても作らなくても1年に3回くらい草刈をしなければならない。私としては、それを誰かが作ってくれるなら、無償でもよいし、お礼をしてもよいくらい。そのようなことを表に出してもらって、民と民でつながりを作ってもらえればよいのではないか。市がすることは、そのようなことで十分に補えるのではないかと思う。バスハイク事業について、負担金が3,500円というのは確かに魅力がある。全然知らない方と会うわけなので、集まってくるのは、人に迷惑をかけない自信のある元気な人達だと思う。民間でも福岡県を対象に行っているところもある。健康づくりやコミュニティ作りの一助にもなると思うので、もしするならば、市一円というより、校区やそれぞれの行政区などでやるべきではないか。市が実施しなければならないのか。
担当課	老人農園事業について民間同士でやっていけるのであれば、それに越したことはない。バスハイク事業は、「元気な方しか来ない」というのは当然そうなのだが、老人福祉政策の中の一環の事業で、来られない方についてどうするのかというのは命題だと思っている。そのようなことについては、介護予防事業との中で閉じこもりや鬱の関係で地域で行っているし、「お達者健康クラブ」や「お達者教室」、「健康教室」など、来られる方についてはそういう形でやっている。家に閉じこもっている方については、話があった場合に訪問している。この事業は元気な方に対する福祉政策。
委員	高齢者生きがいづくりや社会参加において、重要な施策だと認識している。老人農園事業について、参加者7名という少なさの原因は何か。この農園で何を作って、その生産物をどう活用しているのか。市民農園との違いは何か。
担当課	作っている種類はサツマイモやジャガイモ、玉葱など20種類くらいある。その消費については自分たちでやっている。市民農園1区画30㎡で50区画ある。昨日の時点で41区画が埋まっており、残り9区画である。ここは使用料が1㎡あたり400円で、年間1万2,000円払っている。有料で、区画内で自分たちの好きなものを作っているという形になっている。
委員	市民農園もそうかもしれないが、農業を専門にやっている人に邪魔になるというような影

	響は考えたことはあるか。
担当課	人数が少ないということについては、いかんともしがたい。
委員	「バスハイク事業」について、申し込みを開始したら、すぐに定員いっぱいになる人気の事業だと思う。生きがいづくりや社会参加を促すためのものだというのだが、そのような方は社会参加できているので、「バスハイク事業」は民間で自由に行ってもらえばよいと思う。市が関わる話ではないのではないか。もっと違う方で社会参加してほしい方のために考えてはどうか。
委員	資料を見ると事業を統合してもいいのではないかと思う。「バスハイク事業」も「老人農園事業」も統合した場合のマイナスや難しいと思うことは、具体的にどのようなことが考えられるか。
担当課	「老人農園事業」については、無償で使っているところを、1万2,000円お金を払わなければならないということがある。人材バンクは高齢者ばかりではなく、若い人達のサークルのようなものもある。そのような中で、この事業をやっている事務局的なものを手放してやっていけるのかということ。「バスハイク事業」については、どうしても市でやらなければならないのかということと返答に困るが、金額を調べると同じような形態で行くと7,000～8,000円かかる。市がバス代を補助しているので、その分半額くらいで行ける。
委員	1つは個人負担の面で徴収をしなければならないので、どうしても個人負担額が上がってしまうということがマイナス面と理解してよいのか。
担当課	「老人農園事業」については、個人負担が増えただけの話で、「シルバー趣味教室事業」については、会議を進めたりするなどの事務の取り扱いがあるので、高齢の方がこの事務を新たに負担できるのかということがある。
委員	内容としては、統合してもよいのか。例えば、60歳以上、英会話などは年齢に関係なく受講してもよいということか。
担当課	英会話のイメージとして普通の会話と思うかもしれないが、高齢の方なので英会話を使った歌などで、通常の英会話とは少し違う。
委員	高齢者向けの内容になっていると理解してよいのか。英会話やレクダンスといっても内容は高齢者向けになっているので、内容的にも統合していいのか問題になるということか。高齢者の生きがい対策事業なので、対象年齢をはずしてもよいのではないかと言にくいですが、一応、対象を高齢者とするが、例えば学校の子供たちと交流しながら利用者を増やすというのは、この枠組みの中ではできないのか。
担当課	農園自体がそれほど広いものではない。高齢の方が7人くらいで一緒にやるというのは考えたことがないので、なんとも言えない。
委員	農園はどのように管理しているのか。
担当課	定期的に建物があるので、痛んでいると補修しなければならない。近くに田んぼがあるので、農作業の邪魔にならない範囲で草刈をする。去年から委託をして草の搬出などを行っている。
委員	今回の事業には挙がっていないが、健康福祉課で担当している他の生きがい対策の枠内ではなく、社会参加などとの関係がないということか。生きがい対策は生きがい対策単体でやっていて、他との関係はほとんどないということか。老人会を盛んにしつつ、老人会の力

	を借りるということは、事業としては、そのような考え方ではないのか。
担当課	様々な老人の施策の中で、何がよいかというのは色々な種類があると思う。老人福祉を同時にする中で、色々な道具がある。その道具の中の3つがこれであるという認識で、元気な方に来ていただく事業で、それ以外の事業は別にある。
委員	老人クラブ活動と社会参加促進事業のようなものが前の評価にあったが、それは老人クラブに対しての事業であって、元気な高齢者向けの事業ではないので切り離されているということか。参加する人は老人クラブやバスハイク等に参加しているが、事業としては対象が全く別になっているということで、例えば、老人クラブを通してバスハイクを呼びかけるということはないのか。
担当課	老人クラブを通じてバスハイクの呼びかけなくても人が集まる。それぞれ横のつながりはあるので、個別に言っていただければ答えられる。
小委員長	「シルバー趣味の教室事業」について、生涯学習課など公民館で主体的に取り組んでいるものとの差というのは、高齢者向けのアレンジがしてあるということだったと思う。説明の中で、「介護予防として有効な事業ということは紛れもない事実である」との発言があったが、そのあたりの検証は、数値的な分析、聞き取り調査、ニーズ調査をやった上での発言か。
担当課	生涯学習については、社会教育の一環として自然発生的にきたもので、「シルバー趣味の教室事業」については、昭和55年から行政が主体となってやってきたことなので、成り立ちが全く違う。人材バンクについては、サークル的なものがある。介護予防については、「みんなが来てくれるので、ここに戻りたいという希望があって自分は頑張れる」という話を聞いて、そこが居場所になっていて、そこに帰るということが一つの生きがいになっている。また、体を動かすことによって介護予防になる。
小委員長	そのような意味でも生涯学習課で取り組んでいるような事業の中にも、それに組み込むことによって、高齢者の生きがいになるようなケースが多々あると思うが、健康福祉課では、生涯学習課が具体的にどのようなメニューに取り組んでいるのか全く把握していないという印象だったが、そのようなものを把握して、高齢者に多様な選択肢を示して、生きがい対策に役立てるというのが、本来の目的を達成する方策ではないかと思う。健康福祉課では、生涯学習課で取り組んでいるメニューなどを高齢者の方に紹介などはしていないのか。
担当課	年に1回、交流会の中で人材バンクの内容を紹介している。人材バンクには67種類あるが、800人くらいが人材バンクに登録している。そのような情報は知っているので話はしている。
委員	田川市内の65歳以上の人口を教えてください。
担当課	65歳以上の人口は平成24年9月1日現在で14,239人、人口に占める割合が28.06%となっている。
委員	私の地区は老人会組織がないが、それを作るために世話をする人を見つける段階であるが、世話よりも趣味の方が忙しいということと言われる。そのような意味では、市ではなく、校区などでやらせるべきではないか。そうすると地域のコミュニティが芽生えてくるのではないかと思う。もともとコミュニティというのは、隣近所が1番大事で、組でまとまらないものは区や市でまとまらない。そこの段階を重視していくことが大事だと思う。

<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「シルバー趣味の教室事業」については、「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑥設定目標の見直し」、「老人農園事業」「バスハイク事業」については、「3廃止（5）行政の役割終了、民間実施」とした。「老人農園事業」について、市が老人農園をお世話するという点については、終了していいのではないかと。しかし、民間では大いに奨励してもらおうということにしてはどうか。「バスハイク事業」については、あえて市で行う時代は終わったのではないかと。もし、するとしたら、身体障害者等で滅多に外に出ることはないという方を対象に、ボランティアなども加えて考えてみる必要があるのではないかと。したがって「バスハイク事業」については次の段階に進んでよいと思う。「シルバー趣味の教室事業」については、各部会を統合して効率的にやっていく。これも市の段階で行うのか、各校区に委ねていくのかを今後、検討してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「シルバー趣味の教室事業」については統合等も検討しているということなので、人材バンクとの兼ね合いで重複している部分もあるのではないかと。事業の内容を統合すべきではないかということで、「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。「老人農園事業」については、7名の方が生きがいの的にやっているというのは十分理解できるが、先程、地元との関係があると言っていたが、民間を活用するという意味も含めて廃止した方がよいのではないかと、行政としての役割は終わったのではないかと。したがって、「3廃止（5）行政の役割終了、民間実施」とした。「バスハイク事業」については、180名が楽しみにしているということで検討を要する。一般の日帰りでも7,000～8,000円かかるので、経済的な視点から考えて、若干自己負担額を上げて持続してよいのではないかと。「3廃止（4）サービス受給者の自助努力・自己負担」とした。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、③自主財源確保（受益者負担等）、⑧その他」とした。65歳以上の方が約28%、14,000人程いるということだが、この事業自体を考えると参加者がかなり少ない。特に「老人農園事業」については、市民農園と統合、「バスハイク事業」については、全面的に民間に任せて受益者負担を増やした方が、事業としてはよいのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（1）事業の一部廃止、（2）事業内容、手法の見直し、①民間委託実施・拡大、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。「老人農園事業」については、廃止した方がよいのではないかと。参加者が少なすぎると思う。国の農業政策や農業の重要性なども考えて、世代間交流で「農業交流事業」などと統合すると、参加している方々に継続して農業を楽しんでもらうことも可能ではないかと。「シルバー趣味の教室事業」については、参加主体の運営にシフトしていくこと。ただし、対象者が約14,000人の中で受講者が200人というのは少なすぎる。対象者の拡大を含めて、運営方法について検討すべき。「バスハイク事業」に関しては、廃止すべきではないかと。当初の目標である「社会的孤立及び閉じこもりにならない状態」ということで、目標に対する効果が全くないと思う。リピーターを把握していないということであるが、特定の方が楽しむために市の事業として行うべきではない。年1回のバスハイクで本当に効果を発揮することができるのかということにも疑問を感じるため、市の事業としてやるべきではないと思う。年配の方々だけの集まりではなく、世代間交流などを含めて社会との接点をしっかり作っていくことが、介護予防につながるのではないかと。廃止をする、しないにしても、そ</p>

	<p>のような方向性を加味した上で検討してほしい。</p>
委員	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定目標の見直し」「3廃止（5）行政の役割終了、民間実施」とした。高齢者の生きがい対策が始まったころ、行政がやらなければならない範囲が広がったと思う。現在は行政だけではなく、様々な民間団体もやっており、自主的なグループもできているが、市としては何を指すのかということをもう一度検討した方がよいのではないかと。目的はある程度絞り、高齢福祉としてはどうするかということを確認にする必要がある。生きがい対策としても広いが、高齢者福祉の場合では、介護予防と交流という2点に重点を置き、市としてどうなのか検討する時期にきている。手段の追加、改善ということについては、類似事業との統合が大きな課題になっているので、統合した場合のプラス面、マイナス面を事業ごとに示していくのがいいのではないと思う。「バスハイク事業」については、楽しみにしている方もいるので、すぐに民間というわけにはいかないと思う。民間で実施する場合の問題点を具体的に挙げるのがよいと思う。</p>
小委員長	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（1）事業の一部廃止、（2）事業内容、手法の見直し、④対象の見直し」とした。高齢者の生きがい対策事業は重要で必要な事業であるが、事業効果の検証がきちんとなされていないと認識した。参加者数も少ないという状況で、過去の惰性のまま事業を続けるということには非常に問題を感じる。そもそもの事業の必要性というものに立ち返って、他課との取組というものを改めて再構築して、本来の目的に効果がある全庁的な取組を期待したい。「バスハイク事業」については、廃止の方向で検討すべきと考える。「老人農園事業」については、市民農園との違い、高齢者の生きがい対策に効果があるのかということを確認して、効果があるのであれば利用者の増加を図っていくべき。それをやって利用者の増が見込めない場合、市民農園事業との統合は避けられない。</p>
まとめ 小委員長	<p>「事業の一部廃止」や「手段の追加、改善」、事業の「廃止」という意見が多かったと思う。行政の役割が既に終了しているのではないかと。民間の事業との兼ね合いというところに着目した意見が多かった。特定の方が参加していて効果が幅広く行き渡ってないのではないかと。共通している意見として、高齢者の生きがい対策ということについて、主としてどのような役割を果たすべきか。そのようなことを今の時代に照らし合わせて再考すべきで、的を絞ってより効果の高いものに取り組んでいくということが挙げられた。</p>
担当課	<p>市としての役割を再考すべきということについては、考えてはいるが取り組めなかった部分もあるので、意見を参考に事業の見直しに取り組みたいと思う。</p>